

悪影響について考えよう

とても大切なのです

喫煙が健康に悪影響を及ぼすことは、多くの人に知られるようになりました。世の中の流れは禁煙に向かって進んでいるようです。でも、吸う人にとっては、なかなかやめられないもの。習慣化してしまつ前に、小中学生のころから禁煙教育をきちんとすることが大切ではないでしょうか。学校での禁煙教育の取り組みについて、七中で話をお聞きし記事をまとめました（担当は市民編集委員・二輪、柿本）。

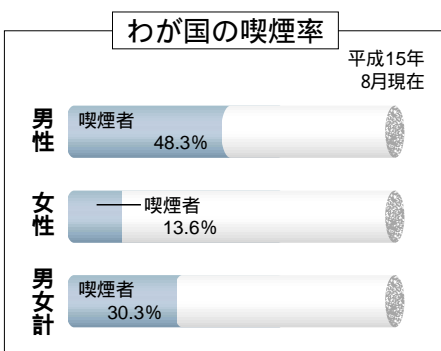
問い合わせは広報広聴課 890 6642へ。

成人の喫煙率は3割以上

なかなかやめられない人が多いようです

日本たばこ産業によると、成人で喫煙している人の割合は下のグラフのとおり、男性四八・三％、女性一三・六％、全体では三〇・三％とのこと。三人に一人がたばこを吸っているという事になります。ここ八年連続して喫煙者の割合が減少しているとはいえ、禁煙に関してわが国はまだまた後進国です。

その一方で、肺がん、心臓病や脳卒中などになりやすい、生活習慣病への危険性があるなど、健康に及ぼす悪影響も広く知られるようになってきました。喫煙している人も、こうしたことを理解していると思いますが、禁煙



することはなかなか難しいようです。たばこには強い習慣性があるため、「分かつてはいるけれど、やめられない」ということでしょうか。

青少年に正しい知識を

七中での取り組みを紹介します

吸い始めた人が禁煙するのは難しいこと。青少年がたばこに手を出す前に、その害などの知識を正しく教えることが重要です。今、中学校ではどのような教育をしているのでしょうか。

昨年五月一日、健康増進法が施行され、保健体育の教科書にも、喫煙に関する項目が取り上げられています。がん研究振興財団発行のパンフレット「君たちとタバコと肺がんの話」も各校へ配布。授業などで禁煙の啓発を行っています。また、国などが推進している「健康日本21」を受け、独自の取り組みをしている小中学校もあります。

子どもたちはたばこ嫌い

大人になっても吸いたくないと思う

同校生徒によるアンケート調査の結果、ほとんどの生徒はたばこを吸ったことがないのですが、数少ない喫煙経験者もその印象は「せき込んでますかった」「体に悪そうだなと思った」など、否定的な感想が多かったようです。

喫煙経験のない生徒は家で喫



学校で使われる本やビデオ

取材に訪れた七中では、養護教諭の指導の下、たばこ、アルコール、がん、食生活について、保健委員会の生徒が取り組んでいます。自分たちで問題提起し、インターネットや図書を利用して調査、その結果を生徒会で発表しているとのことでした。

煙する家族に対し、「臭くて迷惑」「けむい・不快」やめてほしい」など、喫煙に関しては否定的な意見が多いとのことでした。将来においても、自分は喫煙しないと思っている生徒がほとんどであり、喫煙による健康被害の知識は、皆さんしっかり持っているようです。